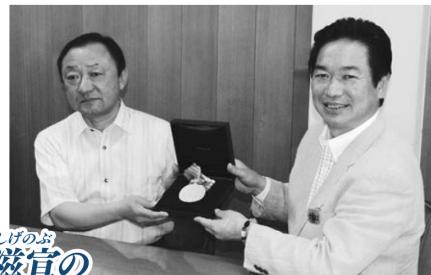


市長の窓

7月10日、山田久志さんから届けられたワールドベースボールクラシック(WBC)金メダルを前に



しげのぶ
滋宣の

“忙中、閑あり。暗中、明あり。”
～その4～

～自己観照～

"自省"の強い人は、自分というものをよく知っています。

つまり、自分で自分をよく見つめているのです。

これを「自己観照」と言います。

自分の"心"を自分の"身体"から取りだして、外から自分を見直してみる。

これができる人には、自分というものが素直に私心なく、よく理解できるのです。

こういう人には、"あやまち"が非常に少ない。

自分にどれほどの力があるのか

自分はどれほどのことができるのか

自分の適正は何か

自分の欠点はどういうところにあるのか

というようなことが、ごく自然に、何ものにもとらわれることなく見えてくるのです。

「忙しい!忙しい!」とばかり言っておらずに、時には「自己観照」する時間ぐらい持ちたいものです。

能代市長 齊藤滋宣